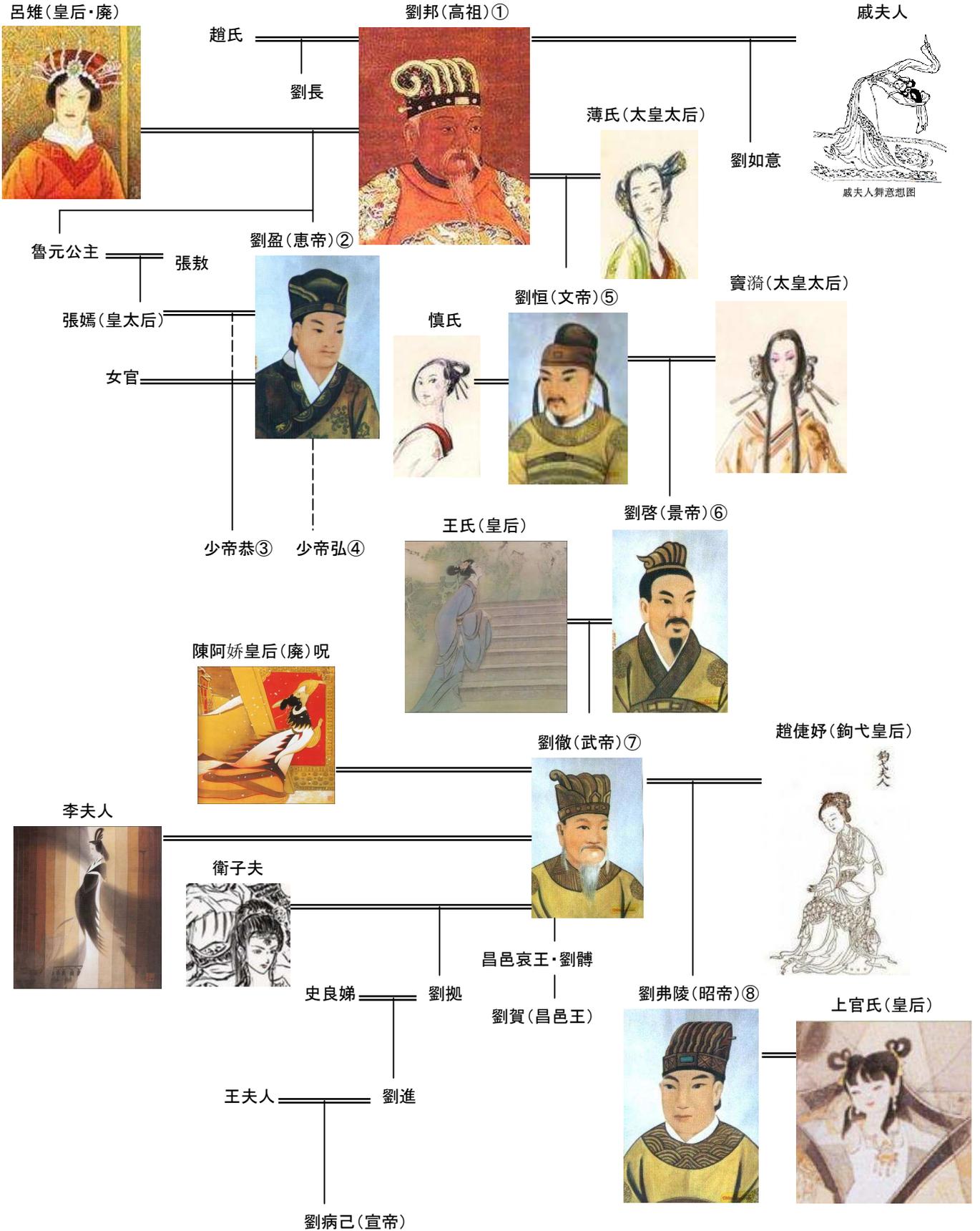
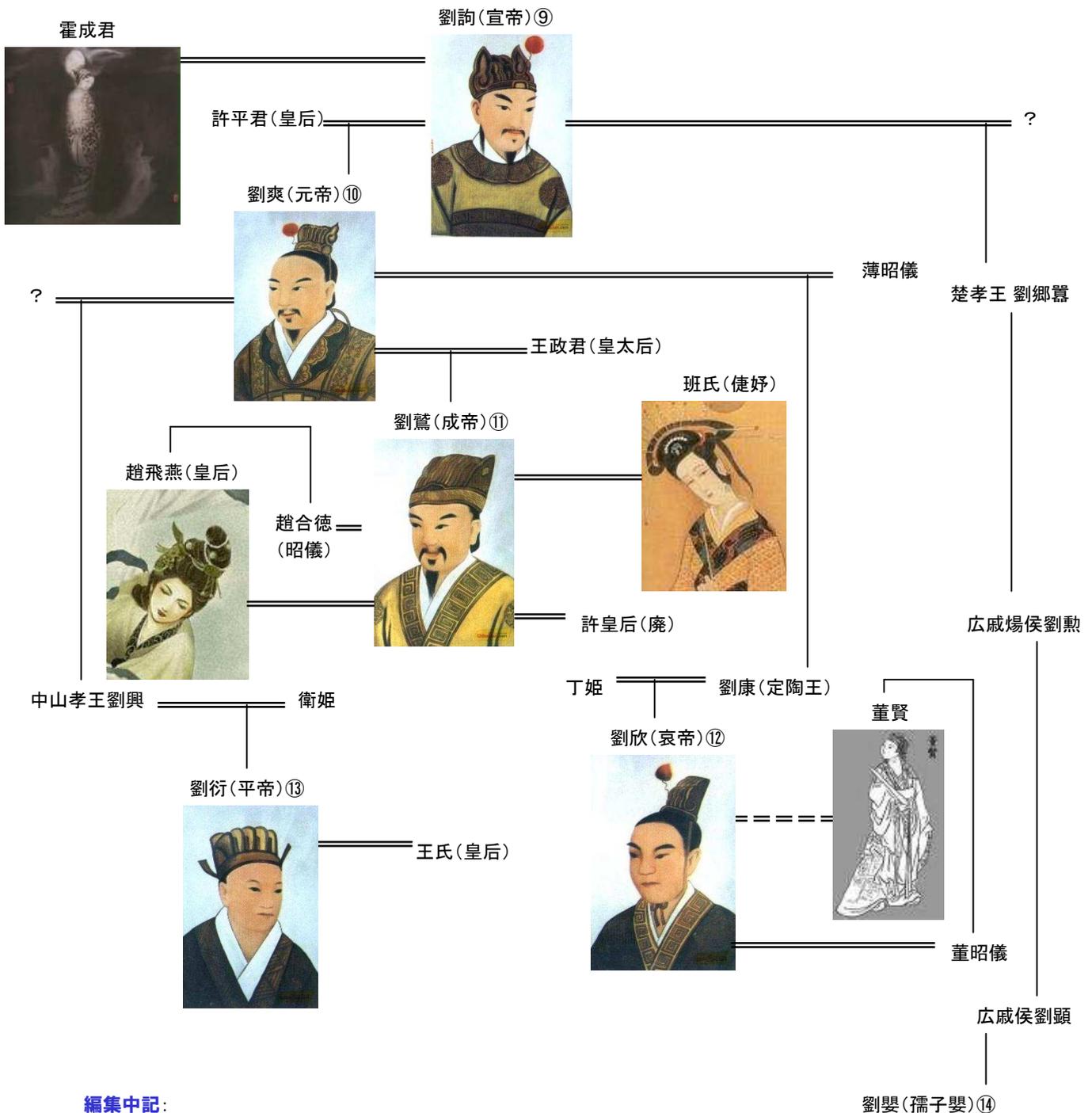


漢時代の人物

●ざっと系譜を作ってみました。前漢までです。資料も探すの大変でした(汗)

婚姻関係又は恋人 ○は皇帝の代 ()は称号





編集中心記:

これだけの顔写真探すの至難の技でした。。。なんといっても紀元前200年、2200年も前の大昔の人物ですよ！もっとみんな顔書いておいてよー。と言いたいところですが、いったい誰が書いたのかよくわかりません。途中で美しい女性は楊貴妃が有名なので楊貴妃の似顔絵ばかりでびっくりしました。楊貴妃の昔の肖像画かなあと思いきやなんと大正時代に上村松園という女性が描いたものを検索せてしまって、それがまあ昔も昔ですけど本当の太古に描いたようなタッチで驚かされます。歴代の王の絵は誰が書いたかわかりません。多分これも明治時代に描かれたなんとかという画家の代物かもしれませんし。。。でも、現代にも漫画のようなイラストがあるのだから古ければ古いだけ価値があるというもので、本当は現代描かれているのも変わらないのかもかもしれませんね。

新・後漢の時代へ

美しく艶やかな戚夫人について

●ここでは高祖劉邦に寵愛されそれが原因で悲惨な死を遂げた戚姫について綴りたいと思います。この描写は彼女に関する絵巻や伝承された書記を参照に掲載することができました。

生い立ち:

(?～紀元前194?) 秦末から前漢の人である。名は懿(い)。劉邦がまだ沛公時代に項梁に従軍して定陶で、劉邦と出会った。定陶とは現在の山東省河沢[かたく]市定陶付近にある。懿は農民の出で身分は低かったという。彼女は袖が大変長く軽い素材でできた華やかな衣裳を身に纏い、腰を折って上体を後ろに大きく反るという楚舞を得意としていた(図1)。「出塞」「入塞」と「望婦」は得意な舞であり人々を感動させたという。

動画 楚越舞演 <http://www.youtube.com/watch?v=JvQWEz26HKg>



図1

戚夫人舞意想图

図2 沛県文化館での撮影

現在は歌風台に移送されている



鴻鵠歌【こうこくか】:

晩年の劉邦が戚夫人を見染め側室に入宮させ寵妃として扱われていたのは有名である。野心家であった戚夫人は庶子である実子劉如意を、なんとか皇太子に立たせたいと思い劉邦に懇願していた。劉邦もまた嫡子である呂雉の実子劉盈の意思薄弱な所が自分に似ていないということから疎み、大臣らに廃嫡立庶を訴えることにしたがことごとく反対された。また、劉盈が廃太子になることを恐れた呂雉が劉盈に張良に相談させ、商山四皓を招いたことで劉邦が皇太子と認めることとなった。その時に劉邦が作り、我身の切なさに悲哀を感じた戚夫人が歌ったとされている。(図2)

鴻鵠高飛 一舉千里 羽翮已就 横絶四海 横絶四海 當可奈何 雖有贈繳 尚安所施

訳 ; おおとりが飛んだ 千里も翔んだ 翼をはやし 四海を渡る 四海を渡る もう止められない
ここに贈(糸のついた短矢)があるけれど 安全なところにいても届くこともない (図3)

図3 中文百科在线より



永巷歌:

紀元前195年に劉邦が戦死すると劉盈(恵帝)が即位し、呂雉は皇太后となり絶大な権力を有することとなる。呂雉に激しい嫉妬を持たれ、戚夫人はすぐさま永巷(罪を犯した女官を入れる牢獄)に幽閉された。そして囚人服を着せられたり頭髪をすべて抜き取られ、首と手首に鎖をはかされた上に米を毎日つかされる刑罰を受けた。牢獄で米をうちながら歌を歌っていたものが後世に伝わる「永巷歌」である。(図4・図5)

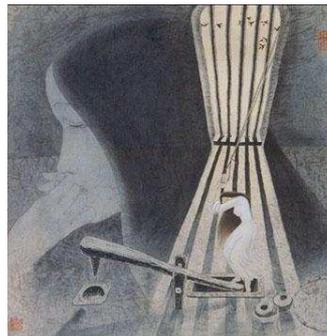
子為王 母為虜 終日春薄暮 常与死為伍！ 相离三千里 当使谁告汝

訳: 子は王と為す 母は虜と為る 終日 春薄の暮 常に死と伍と為す
相い離る 三千里 當に誰か使わし女に告すべし (中国歴代女子詩集・注・呂氏老狐可恨)

図4



図5



これを聞いた呂雉は怒り、趙王に封じられていた劉如意(趙王)を長安に呼び戻すことを命令し、劉如意的暗殺を企んだ。しかし、趙王の側近に入朝をはばまれたり、劉如意が長安に入朝した時も恵帝が食事や就寝などを常に一緒に行動していたため、暗殺は一時食い止められていたが、目を離した隙についに毒殺されてしまうのである。劉如意が死亡した事を知らされた戚夫人は呂雉によって茶色で輝かしい眼を刀によってえぐり取られ、鼓膜を焼き潰されて聾にされた上に毒を飲まされ啞にされた。更に細くしなやかだった両手足を切断され、呂雉がすぐに死なぬよう傷口を縛ったという。

その後、当時豚を飼育していた厠に投げこまれ、糞尿に塗れることがわかるよう鼻はそがれることなく放置されていた。呂雉は恵帝に厠へ案内しその変わり果てた戚夫人を見せ「あれは人豚というものです」と言って笑っていたのだという。戚夫人はその三日後に死亡した。

厠神:

中国の儒教神明に於いて境主神に分類される厠神とは戚夫人とされている。戚夫人が非業の死を遂げたことによって民間が戯曲にし中国全土に広まるとされる。(図6)



図6

また一説では、“戚”という字に誤りがあり“紫”となり『紫姑』という説がある。これは、唐時代萊陽県に住んでいた何媚(字は麗卿)という女性があり、彼女は幼いころより当時は珍しく字が読めるので書物を読んでいた。垂拱3年に壽陽刺史の役職に就いていた李景納が彼女を見染め妾にしたが、李景納の正妻が厠にて暗殺されるという事件があった。その名が姑であったため『紫姑』とよばれ『紫姑廟』とも呼ぶこともある。図7



図7

長陵陪葬:

戚夫人の墓は漢長陵(劉邦の墓)の南にあり、咸陽市秦都区肖家村郷柏家嘴村の大漢墓に葬られていた。しかし、文化革命以降整備され全部農地となっている。この現場は中国歴史家専門の人々の研究結果、又中国で発表された各資料のもと疑う余地はないとのことである。



図8 戚夫人墓跡とされる地処 (遊遍陝西・五百景点・陝西旅遊出版社)

感想:

今回の資料は私が勝手にインターネットで検索してひたすら調べて集めたものです。かってに引用してしまってますみません。

戚夫人にとって劉邦というのは幸せな存在だったのかというところでは、あまりにも可哀想でなんともいえません。当時の平民の間では干ばつや人食いの時代であったので、これほどひどい目にあっていても、人の命は軽く思われていたのかもしれませんが。まさに人間の進化の前線で野性動物と一緒にです。弱肉強食です。この調査も漢王朝建立から約60年後の漢の武帝の時代になって、司馬遷によって著された『史記』で編纂されていた中の『本紀』から抜粋しました。当時の編纂にあたった司馬遷はどんな気持ちであったのでしょうか。中国の祖ともいべき漢王朝を築いた劉邦の最愛の女性。そういう意味では呂後の虐殺が殊更に戚夫人の偉大さを物語ってしまった結果に皮肉を感じます。もし、この虐殺がなければ本当の賢人は呂后だったのかもしれませんが。嫉妬に狂った女性の権力とはこんなにも凄まじいことはどの時代も同じなのですね。しかし、このような支配体制を好むのは比較的アジアに多いような気がします。民族的に体も小さく支配ばかりを追求するのはアジア人の特徴なのかもしれません。現代の私も日本に住む一人の女性。やっぱり妻という立場からの歴史を勉強すると今とまったく変わらない気がします。やっぱり身分差というものを感じます。歴史はくりかえされるというもの。これを基に女性の強さを学んだ気がします。

戚夫人の人生は虐殺で終わってしまい美しいものはかないということを感じてしまいます。また反感を買いやすい。このように世の中に存在する美しいもの、それは人間でも自然でも動物でも大切な命や芸術なのです。大事にしていこうと思うことに気づいてくれたらと思ひ編集したまででした。長く読んで下さりありがとうございます。

